

# 第 4 回 白井市在宅医療・介護連携研修会 ～訪問歯科診療の実際について～

平成 29 年 2 月 16 日 in 白井市保健福祉センター 団体活動室

2月16日木曜日に第4回在宅医療・介護連携研修会が行われました。今回は、訪問歯科診療の実際について学びました。訪問診療の内容や摂食・嚥下障害について学んだあと、事例を通して多職種連携の必要性を考えるグループワークを行いました。

講師に、栄町の竜角寺歯科医院 院長 菊地秀夫氏をお招きしました。菊地先生が実際に取り組んでいる訪問歯科診療の様子をご紹介いただいたり、摂食・嚥下障害や誤嚥性肺炎の説明、訪問歯科診療を依頼するときの注意点などについて講演していただきました。

当日は、5名の歯科医師も含めて50名の医療・介護職の皆様にお集まりいただきました。お忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございました。



地図を使って、  
自己紹介♪

講師の菊地先生。  
写真や動画で、  
分かりやすく説明  
して頂きました



## ＜ 第1部 講演 ＞

### ～訪問歯科診療の実際～

竜角寺歯科医院 院長 菊地秀夫 氏

#### 1. 訪問歯科診療で出来ること

##### ●歯科医師による診療

虫歯の治療（削る・詰める・抜く）

入れ歯を作る・調整する

##### ●摂食・嚥下障害の診断、訓練

##### ●歯科衛生士による口腔ケア

#### 2. 摂食・嚥下機能、肺炎について

・加齢に伴う機能低下（舌の動きが悪くなる、口の中が乾く、味が分かりにくくなる、のどの間隔が鈍くなる、のどの通りが悪くなる、むせる、口のしまりが悪くなる、歯が抜けるなど）

・嚥下機能には、脳内のホルモンが関与しているが、内服薬のなかには、ホルモンの分泌量に影響を及ぼすものがある。

・最も多い誤嚥は、寝ている間の唾液の誤嚥。65歳以上の方の約半数が夜眠っている間に唾液を飲み込んでいる。

・70歳以上の高齢者では、毎日2万人が誤嚥性肺炎で入院しており、年間の入院費用は約4,450億円。

・誤嚥性肺炎の特徴は、肺炎の特徴である『咳・痰・発熱』が少ないため早期発見が遅れる。

#### 3. 訪問歯科診療を依頼するときの注意

##### 『まずは、かかりつけ歯科医へ相談を！』

##### ●どんな人が受けられるか

歯科医院に通院が困難な方（介護認定を受けている、身体的・精神的な障がいのある方、歯科がない病院・施設に入院中の方）

##### ●介護認定を受けている方の場合

申し込み時に、主訴・患者氏名・連絡先に加えて、ケアマネの氏名・サービス受給内容・投薬状況などを伝えてほしい。

## 《 第2部 グループワーク「食べる」を支える多職種連携 》

事例をもとに経口摂取を続けていくために必要な支援について話し合いました。

口腔環境を整えること  
がまず大切！

口腔ケアをしっかりと行  
い、清潔を保つこと！

その次に、リハビリ

食事の姿勢の工夫、  
食事環境、食器の工夫  
家族やヘルパーへの指導

栄養面へのアプローチ

食形態の変更  
とろみの濃度の調整  
楽しく食べる工夫

### 支援に必要な職種とサービスの提案

- 歯科医師（義歯の修理、歯周病治療など）
- 歯科衛生士（口腔ケア）
- 作業療法士（訪問リハビリ、デイケア）
- 言語聴覚士（訪問リハビリ、デイケア）
- 看護師（訪問看護）
- 薬剤師（薬剤の調整）
- 栄養士（低栄養へのアプローチ）

＜参加者の感想紹介＞

他職種の方と実際に話ができ、  
新鮮かつ勉強になりました。



## 在宅医療・介護連携推進事業の今年の取り組みと来年度の予定

### 【今年の取り組み】

#### ●在宅医療・介護連携研修会の開催

＜テーマ＞

- 第1回：薬局薬剤師と共に考える認知症支援
- 第2回：高齢者の救急活動の現状と課題
- 第3回：スムーズな入退院時の支援に向けて
- 第4回：訪問歯科診療の実際について

#### ●在宅医療に関するアンケート調査実施

在宅医療の提供状況や認知症診療、医療・  
介護機関の連携体制の実態把握を実施。

＜調査対象＞

病院、診療所、歯科診療所、訪問看護  
ステーション、居宅介護支援事業所

### 【来年度の予定】

#### ●在宅医療・介護連携、認知症対策推進 協議会の開催

在宅医療・介護連携や認知症対策の推進に向け  
て、医療職や介護職、消防署等の関係者による協議  
会を立ち上げます。

#### ●在宅医療関連資源マップの作成

#### ●在宅医療・介護連携推進研修会の開催

来年度も引き続き、皆様のご協力を  
よろしくお願いいたします。